

## 「ルポ 誰が国語力を殺すのか」

石井光太 (著)

単行本, 336ページ, ¥1,760-  
(文藝春秋, 2022年7月27日)

良書は心と頭の栄養! 今回も1冊紹介させていただきますので, お付き合いの程, 何卒よろしく願いいたします。

突然ですが皆さんに問題です。

**【問題】** 食塩50 gを水200 gに溶かしました。この食塩水の濃度(質量パーセント濃度)は何%でしょう?

小学校の理科や算数程度の知識で対応可能な問題ですし, 試薬の調整や前処理を日常的に行っている会員も多い本誌読者の皆さんには簡単な問題ですね。答えは「20%」です。ところが世間では, 中学生以上の方でも「25%」と回答してしまう場合が一定数いるとのこと。「溶質の質量を溶液の質量で除して百分率で表したもの」という質量パーセント濃度の定義をきちんと理解していれば, 50 gの食塩の質量を水と食塩の質量の和(すなわち溶液の質量)である250 gで除して百分率で表すという計算が容易にできます。しかし, 「25%」と回答してしまう方は質量パーセント濃度, 溶液, 溶媒, 溶質の各用語をきちんと理解しておらず, 「 $50/200 \times 100 = 25\%$ 」と間違えてしまうようです。

本書はルポライターの著者が, 教育現場での国語力の低下の実態と何かしらの問題を抱える子供たちと国語力の関連を取材した結果がまとめられたものです。小学校で行われているとんでもない事業風景, 様々なトラブルによりコミュニケーションが突然取れなくなってしまった子供, 未成年の非行・犯罪と語彙力の関係など, 現実に起こっていることを「国語力」というキーワードと絡めて丁寧に論じられています。著書の中で, 「国語力は言語化やコミュニケーションに加え, 想像力, 表現力, 推察力など, 全ての基本となる」ということが繰り返し述べられており, 改めて「国語力」の大切さを再認識できる内容となっています。

私を含む会員の皆様の中には, 様々な文献を読みこなし, そこで学習した内容を元に論文やレビュー, レポートなど, 文書の形で情報発信を行う先生方も多くいらっしゃいます。さらに, 後進を育成する立場の先生方も多いでしょう。科学は一つ一つの用語の定義をきちんと理解し, また, 一つの物理的現象・化学的現象からその

の先を想像する学問でもあります。「国語力は単なる読み・書きができる力ではない」ということを再認識し, 一つの言葉, 一つの文章を大切にしなければならぬという問題提起も兼ねまして, 本書を紹介させていただきます。

(フロンティアフーズ株式会社 技術部 村田 真一郎)

